

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第1区分
 【発行日】令和1年7月25日(2019.7.25)

【公表番号】特表2018-515133(P2018-515133A)
 【公表日】平成30年6月14日(2018.6.14)
 【年通号数】公開・登録公報2018-022
 【出願番号】特願2018-506801(P2018-506801)
 【国際特許分類】

C 1 2 Q 1/68 (2018.01)

C 1 2 M 1/00 (2006.01)

G 0 1 N 37/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 Q 1/68 A

C 1 2 M 1/00 A

G 0 1 N 37/00 1 0 2

【誤訳訂正書】
 【提出日】令和1年6月20日(2019.6.20)
 【誤訳訂正1】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 7 4
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 7 4】

試料が複数個の細胞あるいはウイルスを含む場合、試料内のそれら細胞は、微細加工デバイスに適用された後で溶解されて、核酸分子を放出し得る。細胞は、例えばアルカリ性曝露のような化学処理、洗剤、音波処理、タンパク質分解酵素Kあるいはリゾチーム曝露を使って細胞を溶解し得る。細胞は、加熱によっても溶解され得る。

【誤訳訂正2】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 1 8 6
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 1 8 6】

この考えを論証する1例として、2つの生物種を含む試料の単純な実例、即ち表6に示す様に、1つの生物種は毎日倍増し、もう一つの生物種は1週間毎に倍増するものとする、を考察する。晩成種が初めは相対存在度が5%と希少であるとする、両生物種が増殖するにつれてそれは直ぐに非常に希少となる。

【表6】

無制限	開始日	1日目	2日目	3日目	7日目	14日目
早成種	19	38	76	152	2432	311296
晩成種	1	1	1	1	2	3
合計	20	39	77	153	2434	311299
早生種相対存在度	0.950	0.974	0.987	0.993	0.999	1.000
晩成種相対存在度	0.050	0.026	0.013	0.007	0.001	0.000

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 8 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 8 7】

早成種が栄養素を奪い合うことおよび/または増殖用の物理的空間によって制限を受けるとすると、その時には表 7 に示す様に、ある時間が経過した後で晩成種の相対存在度が増加し始めている。

【表 7】

制限あり	開始日	1日目	2日目	3日目	7日目	14日目
早成種	19	38	50	50	50	50
晩成種	1	1	1	1	2	3
合計	20	39	51	51	52	53
早生種相対存在度	0.950	0.974	0.980	0.980	0.962	0.943
晩成種相対存在度	0.050	0.026	0.020	0.020	0.038	0.057

(バイオバンク細胞用高密度微細加工アレイ)